

第33期第2回常任理事会議事録

日 時：2004年9月2日（月）13時30分～18時10分

会 場：東京管区気象台会議室（気象庁8階）

出席者：廣田，古川，木田，近藤，住，多田，田中，
坪田，新野，藤部，以上10名。

その他の出席者：島村，渡辺（事務局）

議 事

1. 第33期第1回常任理事会議事録の確認
2. 各委員会からの報告

庶務…転載許可

- 1) 佐々木英治氏（地球シミュレータ）より，
天気第51巻 p. 142の第1図の「海の研究」
（日本海洋学会誌）への転載。
- 2) 日下博幸氏（電力中央研究所）より，気
象集誌第58巻 p. 150の第2図および第78
巻 p. 411-412の第7図，天気第45巻 p. 10
の第3図の「局地気象学」（森北出版）へ
の転載。
- 3) 二宮洸三氏・新田 尚氏より，気象集誌
第70巻 p. 492の第35図他の「天気図の使
い方と楽しみ方」（オーム社）への転載。
- 4) 後藤 進氏（気象庁）より，気象研究ノー
ト第196号 p. 189の第11,12図の「平成16
年度数値予報研修テキスト」（気象庁）へ
の転載。

・後援名義など使用依頼受け付け

名称：第二回ジャパン・サイエンス&エンジ
ニアリング・チャレンジ（JSEC）～高
校生“科学技術”チャレンジ

- 1) 主催：朝日新聞社
- 2) 期日：2004年6月～2005年7月
- 3) 名義：後援

・第33期の各委員会の委員および第1回東アジ
ア気象学会合同会議（国際学術交流委員会の
報告を参照）の組織委員会の委員の方々に委
嘱願いを発送した。

・「山本・正野論文賞」，「堀内賞」，「奨励賞」の
受賞者の方々に受賞通知を発送し，全員から
受諾の回答があった。

・2004年度の三宅賞候補者および朝日賞候補者
の推薦書を送付した。

会計…2004年7月分の収支報告

・公益会計の補助金で，科学研究費として570万
円の入金があった。

・運用資金として流動資産の公社債信託（860万
余）を充てることが了承された。

天気…Vol. 51 No. 8（2004年8月号）の掲載記事と，
Vol. 51 No. 9（2004年9月号）掲載予定記事
の報告。

・今年度秋季大会のプログラムを8月号に掲載
した。

気象集誌…12月号の特集号（Regional Climate Model-
ing for Monsoon System）に掲載予定の論文
11編を集約した。近く編集委員会で報告され
る見込み。

気象研究ノート…207号からの販売は学会が直接行
うことを検討する。

SOLA 編集…ジャーナル創刊と10月から投稿受付
を開始するお知らせを天気9月号に掲載す
る。掲載開始は来年1月の予定。学会の英語
版ホームページに詳しい投稿規程を掲載す
る。

講演企画…大会予稿集のページチャージについて検
討した。1件あたりの金額や免除規定を設け
る案を10月の理事会に提示する。了承されれ
ば2005年度春季大会で会員に説明し，同秋季
大会から実施したい。

教育と普及…8月4日（水）～6日（金）に行われた
夏季大学に対して気象大学校および気象予報
士会の協力と支援があった。

・今期の委員は新たに気象予報士会からも出し
ていただく方針。

国際学術交流…日本・中国・韓国の気象学会が共催
する国際シンポジウムの第1回の開催を日本
気象学会が受け持つ。期間は2005年度春季大
会前の5月13日～14日（金・土）で，気象現
象と物質循環の2セッションで構成する。各
国からそれぞれ10名程度の発表者を想定。会
場は東京大学本郷キャンパスの山上会館と小
柴ホールで参加は無料。

電子情報…2004年7月1日～31日の気象学会ホーム
ページのアクセス状況（95,908件）。

・アクセス数は前月よりも若干減少したが，昨

年同月よりも大幅に多くなっている。

- ・秋季大会の告示ページや過去の大会プログラムへのアクセスが引き続き多い。
- ・2005年度女性研究者に明るい未来をの会「猿橋賞」および第12回日産科学賞の候補者推薦募集記事を掲載した。
- ・TRMM 継続観測に関する取り組みや意見の紹介、また各界・マスコミの反応へのリンクページを適宜更新した。

用語検討…8月末までに用語の取りまとめが終了し、現在整理中である。

3. 会員の加入・退会

新入会員15, 退会78を承認。8月26日現在、会員数4,232名(内、通常会員3,784名)。

4. 第33期評議委員会の方針と候補者の推薦について

気象学会の活動に関し、内部と外部の双方から気象の教育や啓蒙・啓発を幅広く考えることをテーマに5~10名の候補者を検討した。10月の全国理事会で承認を諮る。

5. 地球惑星科学関連学会の連携に関する諸問題について(継続)

7月24日(土)に行われた第2回ワーキンググループ会合の討議内容が報告された。日本学術会議の改組に対応して、地球惑星科学関連の学会について一本化した組織を持つべきとの認識は各学会で共通している。気象学会も設立準備会の設置および準備会への参加には了承の旨を表明しており、他の学会からも今のところ反対はない。連合組織が発足すると、加盟する学会には地球惑星科学全体の発展に関わる様々な機能について人材の派遣および情報の提供が義務付けられる。これら全てに一度に対応することは難しいため、優先するものから順次進めていくのが良いとされた。

6. 気象学会125周年記念行事の準備開始について

具体的な内容と準備の日程を第33期理事会で議論し、実行を第34期に委ねることとする。式典の中心は2007年度春季大会になる。形式的な式典等よりも、次世代会員に歴史認識を促し気象学の方向性を示唆することを優先としたい。

7. 支部の作業効率化についての照会結果について

各支部から寄せられた報告・意見について議論した。ホームページの設置や活用に関する課題、郵送からメールに切り替える際の問題などを事務局で整理した上で、10月の全国理事会で提示し、改めて各支部の意見を聴くこととした。

8. 第33期第2回理事会(福岡)の議題について

当議事の4番から7番を整理したものに加え、講演企画委員会から報告があった予稿集のページチャージの問題と、国際学術交流委員会から報告があった国際シンポジウムについて説明する。2006年度秋季大会の担当機関についても触れる。

9. その他

(1) 気象学会誌(天気、気象集誌等)に掲載された自著作品(論文その他)のホームページへの引用について

会員から、標記について出典を明記するだけで良いかとの問い合わせがあったため、それで良いとした。

(2) 事務局における規則類の整備について

文部科学省からの指導により、就業規則や会計規則などについて、これまで慣例的に用いてきたものを改め、規定類と合わせて整備することとした。11月の常任理事会に案を提示する。

(3) 文部科学省の科学技術振興調整費事業の科学技術政策提言プログラム「サイエンス・メディアエーター制度の推進」について

標記についての調査アンケートが届いた。この研究は、(財)関西文化学術研究都市推進機構が中核となり、人々が科学技術の成果を広く共有する社会を実現するために、専門家と非専門家との双方向理解の推進に必要な仕組みを提言するものであり、研究・教育機関、一般家庭、自治体など様々な組織を対象に調査が実施される。

(4) 学会運営の体制について

今後の学会活動を考えるにあたり、事務局の体制を含む学会運営の在り方について問題点を検討すべきとの意見があった。担当者のボランティア的な尽力では限界があることや人件費など重要な課題が多く、常任理事会で検討を進めることとなった。10月の全国理事会では細則の改正を1件提案する。